定期的に専門口腔ケアで通院している方へのアンケート調査報告

○兼田真矢、山本知子、西井由姫、竹迫　和、田中和宏（田中歯科医院）

【はじめに】

標題の「専門口腔ケア」とは、歯科医院でのＰＭＴＣ（Professional Mechanical ToothCleaning）を指しており、ＰＭＴＣとは、歯科医師、歯科衛生士など専門家により、器具とフッ化物入りペーストを用いて、すべての歯面の歯肉縁上および縁下 1～3mm のプラークを機械的に除去する方法である。

当院では、このＰＭＴＣを単なる歯の機械的歯面研磨でなく、

一次予防：歯周病およびう蝕の発病を防ぐこと

二次予防：歯周病が重症にならないための治療および予防となる

三次予防：歯周病が改善した状態を長期間維持するための再発を防ぐ

ということで実施し、患者さん本人が行うセルフケア（ホームケア）と歯科衛生士によるプロフェッショナルケア（専門的ケア）の必要性、更に患者さんの理解度を高めるための教育や指導への手段と捉えている。歯科衛生士は担当制にし、要する施術時間は残存歯により概ね 30～50 分となっている。

今回は、その受療者のモチベーションの維持および継続的定期ケアとしての有効性を評価したくアンケート調査したので報告する。

【対象および方法】

平成24年4月～7月にかけて当院に定期的ケアで来院された患者さんを対象にアンケートを実施した。

回答者数は 155 名、内訳として、性別では男性 62 名・女性 93 名、年代別では 20 歳代 6 名、30 歳代 8 名、40 歳代 13 名、50 歳代 27 名、60 歳代 64 名、70 歳以上 37 名。定期ケアの来院年数別では、10 年以上が 29 名､5～10 年未満が 73 名､3～5 年未満が 14 名、1～3 年未満が 25 名、6 ヶ月未満が 9 名、3 ヶ月未満が 5 名。定期ケアの間隔別では、1 ヶ月が 22 名、2 ヶ月が 30 名、3 ヶ月が 56 名、4 ヶ月が 2 名、6 ヶ月が 45 名。残存歯数別では、25 本以上が 92 名、20～25 本未満が 30 名、15～20 本未満が 13 名、10～15 本未満が 14 名、10 本未満が 6 名であった。

アンケート実施と併せて、実施期間内の抜歯数についても調査した。

【結果】

「機械を使っての清掃について」は「気持ち良かった」が約 82.6%で、男性よりも女性の方が約 12%多かった。「受ける時間について」は、男女とも”長く思わない”が約 83%､”長い”というのは約 5%､”どちらでもない”が約 12%。「赤く染出してのブラッシング指導について」では､約 85%がわかりやすい。ただ、11%は”時々がいい”であった。「歯科衛生士の説明は」では、98%の 152 名が”わかりやすい”、2 名が”なんとかわかる”、1 名が無回答であった。

次にＰＭＴＣのステップである「ブラシによる清掃・器械による歯面清掃・超音波器具による清掃・薬剤注入塗布」および「パウダー吹付けによる歯面清掃」について良否を回答してもらったところ、受療者のうち”衛生士によるブラッシングなど”が 84%と好感がよく、あまり良くないものとしては”超音波による清掃”が 17%と高く、それ以外は 2.6%～5.8%であった。”どのくらいの間隔がいいか”では、実際に 1 ヶ月･3 ヶ月･6 ヶ月で来院の方の約 85%が同じ期間で、2 ヶ月の方の 70%が同じ期間､20%が 3 ヶ月などとなった。

調査期間中の回答者の抜歯数は、4 月に 1 本、6 月に 5 本の計 6 本であった。6 月が 5 本と多いのは、以前から抜歯該当歯であったが本人希望で残していた残根などの抜歯が集中したためである。4 月～7 月の来院患者の智歯・乳歯を除いた一人平均抜歯数は 0.0618 だが、回答者では 0.0175 という数字であった。

【まとめ】

口腔内の疾病の治療および予防管理を目標に、その人に応じた間隔で定期的に来院してもらうこと、また途切れること無く継続できるためには、従来からの”痛い・怖い”という歯科医院のイメージをなくし、専門口腔ケア施術後に爽快感と快適さを提供しなければならない。

今回のアンケート調査から、専門口腔ケアの有効性は確認できたが、更に不快感のない効率的な施術が提供できるよう術者は技量や知識のスキルアップを図り、ＰＭＴＣの各ステップでも 95%以上の好感度になるように努めていきたいと考える。

「歯科医院でまた口腔ケアをしてもらいたい」「自分でも気持よくしておきたい」というモチベーションが重要であり、それを助けることは専門口腔ケアの役割であろう。いかに高齢になっても、また介護が必要になったとしても”口の中が不衛生では我慢できない”という健康意識を維持させることで、より多くの残存歯の保持と健康寿命の延伸につながり、また口腔ケア不良からくる様々な疾患の予防にもなると期待する。